NIE実践報告

1．タイトル：「社会科」授業の資料としての新聞活用

2．学校名

熊本県天草郡苓北町立都呂々小学校

3．実践者名（代表者名）

本田　聡太郎

4．学年

第5学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　13人

6．単元（本時の学習課題）名

これからの食料生産

7．目標（狙い）

教科書の内容よりも新しく、わかりやすい資料を使うことで、より食料生産に関心をもって授業に取り組もうとする態度を育てる。また、自分の地域の記事から、教科書の内容をより身近に感じ、理解を深める。

8．評価の視点

児童が、資料を見て、自ら課題に気づき、意見を出す場面。
これからの食料生産について自分の考えを書く場面。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

単元「これからの食料生産」2時間扱いの1時間目

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)この単元では、「日本の食料自給率」の実態から、わが国の食料生産の在り方について考えを深めていく。教科書にもいくつかの食材の自給率が円グラフで示されている。しかし、今回は、新聞に載っていた「NIEのページ」から、最新の自給率の資料を使うことにした。
　新聞を使う利点として、教科書よりデータが新しいこと、資料が見やすくデータが多かったこと、教科書のデータとの比較もできることが挙げられる。
(2)新聞をスキャンして、黒板に絵を掲示して見せながら、どれほど自給しているかをみんなで話し合いながら考えていく。
(3)話し合った後に、自給率を見せる。
(4)どうして、こんなに自給率が低いのかを考え、このままでいいのかを児童がそれぞれ自分の意見をもつようにする。
(5)最後に、自分の町の食料自給の話の記事を読み、日本の自給率の問題が身近なところにもあると実感する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・児童は、わかりやすい資料で反応がよかった。各食材の自給率に対して、とても興味深く反応してくれた。
・自分の町の食料自給率の話が新聞に載っていたことで、日本の課題を身近に感じることができた。

12．成果と課題

○新聞で取り扱っているので、日本の大きな課題であるということが児童も教師も実感できた。
○資料は、教科書以上に見やすく、児童の頭の中に入り、視覚資料としてとても効果的であった。児童からは、「少ない」「これだけしかないの?」「輸入ばっかり」等の素直な感想がたくさん出てきた。
○この授業は授業参観時に行ったため、保護者の方への啓発にもなり、保護者の方からも興味深いと反応があった。